CASBEE 名古屋 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 ▌使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要

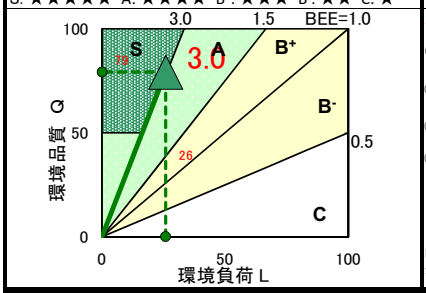
建物名称	愛知県警察運転免許試験場整備等事業	階数	地上4F
建設地	愛知県名古屋市天白区平針南三丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	340 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,800 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年10月1日
敷地面積	99,177 ㎡	作成者	多羅間 次郎
建築面積	4,663 ㎡	確認日	2018年10月5日
延床面積	15,501 ㎡	確認者	渡邊 孝一

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE 3.0 ★★★★★

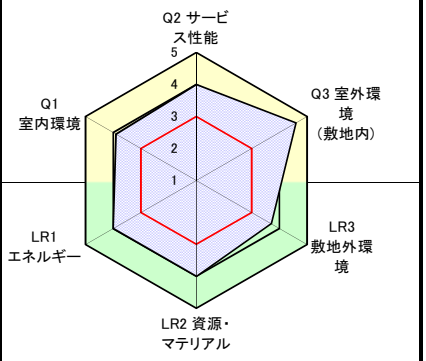
S: ★★★★ A: ★★★ B+: ★★ B-: ★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

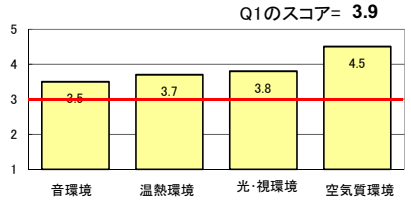
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



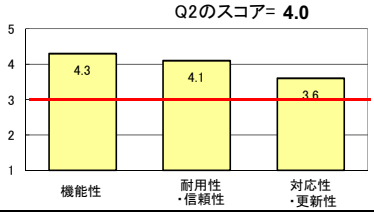
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　Q のスコア= 4.1

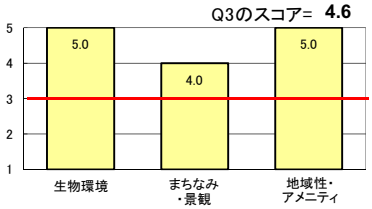
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.9



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 4.0

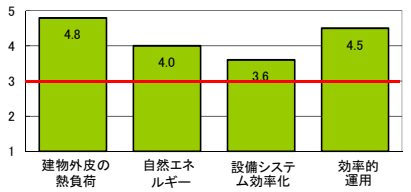


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 4.6

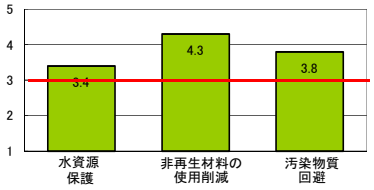


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.9

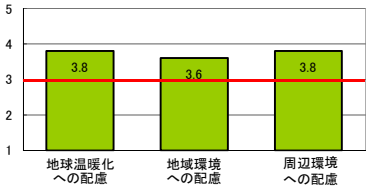
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 4.0



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.7



3 設計上の配慮事項

総合

運転免許試験場という施設特性に合わせた、来場者及び、施設管理者に配慮した環境配慮計画を実施した。具体的には、施設利用者に対する快適な室内環境の形成、自然エネルギーを利用した設備計画、災害時における設備バックアップ等の計画を行うこととする。

その他

0

Q1 室内環境

室内環境に対する配慮としては、全空気式の天井放射空調方式を採用し、来場者に対して快適な温熱環境を形成する。窓廻り性能としては、ペアガラスに、スマートシェードによる直射日射の遮蔽にて、窓廻環境に配慮を行う。また、吹抜空間を利用した自然換気方式を採用し、中間期の自然エネルギー利用を行う。

Q2 サービス性能

サービス性能として、十分な天井高さを確保した室内空間の確保や、リフレッシュスペース等の来場者及び施設利用者に対するサービスを考慮した平面計画を行う。また、設備計画の信頼性として、電源引込の二重化、熱源種（電気、ガス）の分散化、非常電源の確保、等といった設備を導入し、災害時及び非常時に対する設備の冗長性に配慮した計画としている。

Q3 室外環境（敷地内）

室外環境（敷地内）として、生物環境の形成に配慮した外構計画、室内と外部との中間領域としての吹抜空間、施設利用者に対する建築計画的な配慮等の計画を行う。また、排熱の伴う設備機器を屋上設置することで、周辺環境の温熱環境に配慮した計画とする。

LR1 エネルギー

最新の高効率設備機器（空調・換気・照明）の採用、吹抜空間を利用した自然採光・自然換気といった自然エネルギー利用により、施設全体のエネルギー消費量の削減を考慮した設備計画としている。また、中央監視設備やBEMSといったエネルギーのモニタリングが可能な設備計画としている。

LR2 資源・マテリアル

資源・マテリアルに対する配慮として、節水型の衛生器具の採用、躯体材料におけるリサイクル材の採用、有害物質を含まない建材の採用等を行う建築・設備計画としている。

LR3 敷地外環境

敷地外環境として、地域住民へ配慮した計画としている。敷地内での十分な駐車・駐輪スペースの確保や、渋滞緩和を考慮した構内道路計画等、施設特有の交通負荷の抑制に配慮した計画としている。また、外部への漏れ光の抑制、近隣に対する風環境の配慮等といった計画を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される